

1. ユニクロ、来春の初任給2割アップを発表

私が購読している日経MJ（4月8日）に全世界でユニクロを展開するファーストリテイリングが、来春入社の新入社員を今春比で2割引き上げるといった情報が掲載されていました。

早速、情報の真偽を確認する為にネットで検索。確かに2割UPと出ていました。海外を含む転勤がある職種を対象とするものの、今春21万円だったのを一気に4.5万円引き上げて25.5万円とするようです。引き上げ率は21.4%です。会長兼社長のカリスマ経営者柳井正さんでも思い切った決断ですが、ある意味では必然なのかも知れません。

ユニクロの4月11日発表の上期決算サマリーによれば2019年8月期予想はG全体で2.3兆円。3月中間期では国内ユニクロ49百億円、海外ユニクロ58百億円と海外が国内を上回っています。中国事業の売上高は5000億円/年で、伸び率は中国事業の方が国内よりも遙かに高いのです。

2018年8月期に連結売上高が2兆円に達したユニクロのターゲットは自社の前を走っているZARAやH&Mです。海外勤務も厭わない優秀な人財確保が最重要課題です。2年前だったと思いますが、ユニクロは通年採用は勿論のこと、大学1回生でも内定を出すという方針を決定しました。**世界で戦っていくには形振り構わず有能な人財の青田買いもする！という必死の決意**がみて取れます。

長く続いている平和に浸りきっている日本人。海外で必死に稼ごうと頑張っている外国人。外国人を採用できなければユニクロも2強を出し抜くことはできません。人事制度も苛烈でしょう。ある意味ではパワハラ云々と言っているのは明日は敗者の憂き目に遭うかも知れません。

ユニクロの初任給2割UP。影響を受ける企業は商業だけではないでしょう。製造業やIT産業、飲食業、サービス業等々**あらゆる産業にじわじわと影響を与えていく**に違いありません。高い給与に関心が強い学生であればなお更です。

給与体系を見直すことも必要となってくるかも知れません。今、最適な評価制度や給与体系であっても、ユニクロのような外圧がどっと寄せてきて脆くも崩れるかも知れません。**制度の見直しを定期的に行っていきたいものです。**

2. 一万円札の顔が渋沢栄一へ

2024年（令和5年）に日銀券（紙幣）が変わります。一万円札は福沢諭吉から**渋沢栄一**へ、5千円札は津田塾大学創始者の**津田梅子**、千円札は**北里柴三郎**。大分県人としては郷土の偉人福沢諭吉が外れることには一抹の寂しさを感じます（笑）。

世界各国では高額紙幣の発行を抑制するのが流れの様です。インドでは数年前にモディ首相が一夜にて高額紙幣を廃止した為に大混乱に陥りました。しかしその反射効果でインドではキャッシュレス社会が急速に浸透しました。キャッシュレス決済が高額紙幣を不要にしつつあるのです。

新札には偽札防止の為に技術が投入されているようですが、**2025年までにキャッシュレス比率40%を目指す政府の方針と相入れないような気がします。**

渋沢栄一は日本資本主義の父とも言われ、著書「論語と算盤」にあるように企業家道徳に強い関心を持っていました。**今年の大型10連休には渋沢と福沢の著作をひも解くのも良さそうです。**

3. 書籍のご紹介

榎本博明著「ビジネス心理学100本ノック」（日経文庫）をご紹介します。**ビジネスは他者との関係性を無視して進めることはできません。**他者には社内であれば上司、同僚、部下が該当しますし、社外であればお客様、取引先、同業他社、官公署等が該当するでしょう。

ビジネスを成功させるには自分の心の持ち方であったり、相手側の心理状態を把握する必要があります。本書は「人間関係」「人事評価」「キャリアと能力開発」「やる気」「リーダー」「説得」「マーケティング」「（取扱いに）困った人」の8章からなっています。本人も含めて**人が陥り易い言動の背景を心理学の観点から解き明かしています。**

例えば「なぜ部下はすぐに言い訳するのか」との疑問に対し、「否定的印象をもたれてしまう可能性がある」とそれを出来るだけ避けようとするらしいのです。この反応を心理学では防衛的的自己呈示と言います。本書では対応策も言及しています。

ビジネスを成功させる為に社内外の人との付き合い方を見直したい経営者にお勧めの本です。